

当日は快晴！ でも見えなかったウルグアイ日の出皆既日食

木寺早人

石井氏を中心に綿貫氏と私の3人でウルグアイに向けて成田を飛び立ったのは6月26日。当初、道家氏も一緒に行くはずだったが、彼は都合が悪くなり結局3人旅となった。

6月26日17時、成田空港のヴァリグ航空カウンターの前で待ち合わせて、18時に通関。意外にすいている、というよりがら。免税店は客より店員の方が多い。夕暮れの19時10分、いよいよ最初の寄港地ロサンゼルスに向けて出発。東に向かう飛行機の右側(南)の窓は既に真っ暗な夜。一方左側(北)の窓は未だ夕焼け。夏の夜は南から来ることがよくわかる。23時過ぎ、北斗七星を眺めていたら薄明が始まった。飛行時間から考えて西経170度付近、日付が昨日に戻ったのだ。日の出は0時09分にハワイ北方洋上で迎えた。が、悪天候のために赤や黄色のきれいな日の出ではなく、白く眩しい光がいきなり飛び込んで来ただけだった。下界の現地時では26日の5時過ぎでもう明るいだろう。ロサンゼルスには26日12時03分に着陸。給油と掃除の後に14時59分、リオデジャネイロに向けて離陸。飛行時間は11時間25分の予定。カリフォルニア半島にそって南下して2時間40分で最南端を通過したあと、夜になってメキシコ本土を横断してカリブ海上空へ。下界のカリブ海は激しい雷雨で大荒れのような。ひっきりなしに稲妻が光って高度10,000mを飛ぶ我がヴァリグ機をストロボのようにたて続けに照らしだす天然花火の海域を過ぎると、綺麗な港町が見えてきた。ベネズエラの首都のカラカスだ。初めて見る南米大陸は海岸線をくっきりと浮かび上がらせていたが、内陸部に入ると下界は見えなくなった。下には広大なアマゾンの流域が展開しているはずなのだ。夜とはいえ雲がなければ何か見えるはずなのに残念。一方上空には北天にベガサス、南天にさそりとケンタウルスが見えるが、隣にあるはずの南十字はどうしても見つからない。3時57分、月が出てきた。3日と4時間後に太陽を隠す月令27の細い月だ。早い朝食の後5時30分、下界に美しい町が見えてきた。スチュアーデスに聞いたらマチとしか教えてくれなかったが、コンドルが翼を広げたようなあの形には地図帳で見覚えがある。ブラジリアだ。美しい人工の首都ブラジリアは、ナトリウムランプのオレンジ色一色で化粧している。まもなく朝焼けが始まり着陸の準備。リオデジャネイロの日の出は6時33分。その直前に着陸なので着陸態勢に入ったところで日の出を見て(高度5,000mでの日の出は6時21分)、着陸してからもう一度日の出を見ることができる、と期待したが世の中そこまで甘くはない。朝日新聞のマークのように放射状の光で太陽の位置はわかるが両方とも太陽本体は見えていない。着陸は6時32分、機外に出て待合室で2時間余り休むが、ここの場内アナウンスが妙にゆっくり間延びした英語で、これなら私にもなんとか分かる。8時55分乗り込み9時10分に離陸。約3時間の飛行の後、12時03分ブエノスアイレス空港に着陸。気温は4℃。落葉樹はすっかり葉を落としている。当たり前だ、ここは今冬なのだ。14時07

分、モンテビデオに向けての最終飛行は僅か24分。成田からの総所要時間は31時間37分。ウルグアイへの入国は極めて簡単だった。唯一の例外は石井氏の気象ファックス。売り飛ばすのではないかと疑われたらしいが、それよりも英語とスペイン語のすれ違い会話に苦勞していた。

ウルグアイは天国？

クーデターやテロを繰り返す南米にあって、インフレはひどいが平穩な生活を楽しむ治安のよい国ウルグアイ。入国早々にそれを実感した。空港からクリロンホテルまでタクシーに乗ったが、降りるときに石井氏が財布を無くした。現金は諦めるとしてもクレジットカードが入っている。必死になって探すか、路上に落としたものか他の荷物に紛れているのか、ひょっとしてタクシーの中かもしれないとホテルのインフォメーションにタクシー会社に連絡を頼むと、すぐに連絡がとれて、車内を捜してもらったら有った、という訳でホテルまで届けてくれた。無い、と、とぼけられても仕方のない状況なのに感激である。

翌朝9時20分、いよいよ最終目的地ブタデルエステに向けてバスに乗り込む。路線バスト観光バスを足して2で割ったようなもので、ホテルまで迎えにきてくれた。バスガイドさんは我々の荷物を見て日食かと聞いた。途中、コーヒープレイクや展望台や岬など観光地巡りをしながら、140km余りを4時間かけて13時27分、ブタデルエステのホテルアムステルダムに到着。なんと Door to Door のサービス。料金は一人5ドル (US\$)。ホテルにチェックインの後、観測地の下見に出かける。日の出は真東より28度も北だ。海上からの日の出にこだわった我々は、幸運にもホテルから数百メートルの距離にそのベストポイントを見つけて、翌朝リハーサルをすることにして、夜は街に出て食事をとる。その安さと量の多さにびっくり。400~500gは有りそうな大盛りビーフステーキが(但し添え物はほんの少し)11000~19000ペソ。日本円で440~760円相当。味も良いなかなかの品だった。

良く見えたリハーサル

6月29日4時30分、快晴の星空下でリハーサルを始める。日の出は7時48分25秒。太陽全出は7時51分15秒だ。秒単位までは確認できなかったが、日の出も太陽全出もきれいに見えた。第2接触も第3接触も、それぞれの想定時刻に帯状の薄い雲を通してずっと見えていたので、3人とも明日の本番での成功を信じていたのだが……。

6月30日、日食本番

極軸合わせのために綿貫氏と石井氏が夜中に出て行ってまもなく、雨が降ってきたと言って帰ってきた。まさか。少々不安になる。しばらく休んで、早めの3時頃に出かけて現地を待つことにする。雲は多いがベタ曇りではない。それにどんどん流れて消えていく。朝焼けの頃には水平線付近に僅かに残る程度。それなのに、ああそれなのに……。

日の出は昨日と同じ7時48分25秒。しかし太陽の所には高度2度位まで厚い雲が。太陽全出の51分15秒にも全く見えず。雲がこのまま止まっているか、少しでも下がれば第2接触と第3接触はなんとか見えるという祈りとは逆に、雲は時と共に上がってくる。皆既の頃には雲の高度は4～5度になって全く見えない。しかし、本影錐の動きははっきり見えたし、皆既中の星空はきれいだった。南天には明るい星が多いし空は快晴。ただ東の水平線上に僅かに雲があるだけなのだ。日食は見えなかったが、ウルグアイの人達の温かい心と交流できたのはよかった。残念なのは我々の観測地に集まった100人近くの人達と共に日食を見た喜びを分かち合えなかったことである。もし見えていたら陽気なラテン人の事だ、大変なお祭騒ぎで我々も一緒に揉みくちやにされていたことだろう。

太陽が姿を見せたのは8時15分。第3接触を12分も過ぎてからだった。

8810